

令和 6 年度 学校関係者評価結果報告書

令和 7 年 5 月

評価対象期間

自令和 6 年 4 月 1 日

至令和 7 年 3 月 31 日

公益財団法人 中国四国酪農大学校

学校関係者評価委員会

I 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の趣旨

中国四国酪農大学校における学校関係者評価の目的は、大学校が実施した自己評価結果を関係者評価委員会へ報告し、自己評価結果の客観性・透明性を高めるとともに、指導助言を得て教育活動及び学校運営の改善を図ることである。

2. 学校関係者評価委員会の審議事項

- (1) 実施体制、実施方法及び評価項目について
- (2) 自己評価の結果および今後の改善方策について
- (3) 令和6年度の重点取組目標と計画について
- (4) 学校関係者評価報告書の作成及び公表方法
- (5) その他審議が必要とされる事項

3. 基本方針

大学校における学校関係者評価は文部科学省生涯学習政策局『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って行うことを基本とする。

4. 自己評価の仕方

大学校は学校関係者委員会の実施に先立ち、『専修学校における学校評価ガイドライン』に則って、令和6年度自己評価を実施した。

自己評価の点検項目は、10分類59項目である。『令和6年度自己評価集計結果』には、自己評価ポイント（適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）を示した。また、項目ごと、職員の記載した現状及び問題点と改善策を記載し、自己評価委員会の審議を経て学校関係者評価委員に提出した。

5. 自己評価の実施

期 間：令和7年3月17日～27日

対 象：パートを除く教職員（事務職員も含む）13名

回答数：13名

6. 自己評価委員会の開催

令和7年4月23日

自己評価委員名簿

委員長	菱川雅弘	校 長
委 員	串田晴彦	副校長
”	関 哲生	教務課長
”	芦田草太	第2牧場長
”	有富英美	総務係長

II 学校関係者評価委員名簿

酪農・畜産関係団体関係者：全国酪農業協同組合連合会

大阪支所中四国事務所長 阿部真之介

大学校同窓会長（卒業生代表）：中国四国酪農大学校同窓会長 小谷 徹

農業高等学校関係者代表：岡山県立高松農業高等学校校長 三輪 貴

地域住民代表 ：おかやま酪農業協同組合蒜山事務所 山本恭子

県行政担当者 ：岡山県農林水産部畜産課総括参事 塩田鉄朗

III 学校関係者評価委員会の開催

令和7年5月2日

自己評価結果の解説とその評価

学内関係者：菱川雅弘 校長

串田晴彦 副校長

関 哲生 教務課長

学校関係者評価委員会の内容

学校の概要及び教育活動の説明

自己評価結果の説明と質疑

評価結果の判定（評価シート記入）

IV 学校関係者評価委員会の評価結果

1. 評価の仕方

学校関係者評価委員は、大学校の説明を受け、自己評価集計結果の内容及び、自己評価結果の評価方法を理解したうえで、大学校が行った自己評価結果について、A適切である Bまあ適切である C若干の改善が必要である D改善が必要である の4分法にて評価を行い、その理由や意見を書面により表した。

2. 項目別評価結果と主なコメント

（1）教育理念・目的

A適切である4人 Bまあ適切である1人 C若干の改善が必要である D改善が必要である

・厳しくすると学生が離れていく心配もあるが、生産現場が求める人材を育てる実践教育を継続して欲しい。

・オープンキャンパスや学校説明会などを活用し、地道に学校の教育理念や目的を知ってもらうことが大切だと思う。

（2）学校運営

A適切である3人 Bまあ適切である2人 C若干の改善が必要である D改善が必要である

・SNS、ホームページ、業界雑誌への投稿などによる情報発信は有効であり、より充実を図って欲しい。

(3) 教育活動

A 適切である 2 人 B まあ適切である 3 人 C 若干の改善が必要である D 改善が必要である

- ・関係機関との新たな連携による外部講師の確保や職員個々のスキルアップにより、更なる教育内容の充実を図って欲しい。

(4) 学修成果

A 適切である 1 人 B まあ適切である 3 人 C 若干の改善が必要である 1 人 D 改善が必要である

- ・学生が多様化しており、8%程度の退学率はしかたないと思う。
- ・充実した学生生活が送れるよう、情報リテラシーや情報モラルについての教育やカウンセラーによるサポート体制を整えることが望ましい。
- ・卒業生の状況把握やフォローアップ体制の強化は重要であり、関係団体との連携は有効と考える。

(5) 学生支援

A 適切である 2 人 B まあ適切である 3 人 C 若干の改善が必要である D 改善が必要である

- ・個別面談以外に Google フォームを活用した相談や意見聴取を行うことは良い取り組みだと思う。
- ・新たな国の高等教育の修学支援制度の認証取得など、経済的支援については対応できていると思う。

(6) 教育環境

A 適切である 2 人 B まあ適切である 3 人 C 若干の改善が必要である D 改善が必要である

- ・第 2 牧場における放牧酪農の実践やバイオマス発電施設の整備は、体験や教育を通じて理解醸成や消費拡大につながる取組であり、積極的に進めて欲しい。

(7) 学生の受入れ募集

A 適切である 2 人 B まあ適切である 3 人 C 若干の改善が必要である D 改善が必要である

- ・引き続き地道な募集活動に取り組むとともに、積極的に情報発信を行って欲しい。
- ・学納金の検討も必要な状況であるが、十分な検討を行って欲しい。

(8) 財務

A 適切である 1 人 B まあ適切である 3 人 C 若干の改善が必要である 1 人 D 改善が必要である

- ・学校の存在意義を考えると、行政がもっと支援すべきと思う。
- ・生産物収入については、ある程度限界に近いということで地元岡山の製造副産物を使うなど、生産原価を下げる取組も必要と考える。

(9) 法令等の遵守

A 適切である 5 人 B まあ適切である C 若干の改善が必要である D 改善が必要である

- ・特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

A適切である4人 Bまあ適切である1人 C若干の改善が必要である D改善が必要である

- ・畜産バイオマスの活用や放牧酪農の実施により、今後さらなる付加価値を地域や酪農業界にもたらし、
ことができると感じる。
- ・ミルクフェア等、消費者との交流の場に学生が参加できる機会が増えればよいと思う。
- ・共進会への参加に加え、地域での様々なアルバイト等で学生は大いに地域に貢献していると思う。

○全体を通じて

- ・学校の経営目標の基にしっかりとした教育活動がなされている。
- ・また、その成果は学生の進路にもしっかりと表れている。
- ・それぞれの項目に課題はあるが、それに対しての改善方針や改善策もよく考えられている。

3. 令和7年度の重点取組目標と計画について

- (1) 意欲ある学生の確保（情報発信・カリキュラムの充実・オープンキャンパス・学校説明会）
- (2) 学生支援の充実（学習面と生活面での支援・相談対応の強化・関係機関との連携）
- (3) 運営体制の強化（関係機関との連携強化・人員の確保とスキルアップ）
- (4) 酪農フィールド研修、酪農教育ファーム活動及び地域貢献活動の充実